

『佐礼谷わんぱく塾』で  
子どもたちの健全育成をめざす

あべ あらた  
**安部 新さん** (中山町佐礼谷)

「学校の授業では教わらないことを子どもたちに教えたいんです。」そう話す安部新さんは、『佐礼谷わんぱく塾』のお世話をしています。このわんぱく塾は、去年から行われているもので、参加しているのは佐礼谷小学校に通う児童23人。毎週水曜日、子どもたちの授業が終わった後の15時から17時ごろまで活動しています。

「学校の近くの農園でさつまいもやトマト、トウモロコシを育て、収穫祭にみんなで食べたいこともあります。こうした活動には地域人々の協力も欠かせません。」地域全体で子どもを育てていくという気持ちがありますね。小さな地区だからこそできることかなと思います。

取材をした日は、工作教室の最中で、子どもたちが作っていたのは投げの道具。出来上がったらみんなで遊ぶのだそうです。高学年の男子は器用に金づちやきりを使って、輪を引く掛ける柱の部分を作り、女子的の数字のペンキ塗りを担当。また、低学年の子どもたちは、七夕の笹がざりに願い事を書いて飾りつけをしました。



▲塾では子どもたちからの質問も多く、大忙しの安部さん。

安部さんは、作業の間、子どもたちから質問を受けて大忙し。しかし、「金づちは柄の下の方を持つと力が加わりやすくなるよ。」「刷毛はこう使つと角がきれいに塗れるからね。」と一人一人に丁寧なアドバイスをします。「子どもにも教えることは好きですね。以前から中山スポーツ少年団で剣道も教えています。子どもと触れ合っていると、パワーをもらえて気持ちも若返るんです。活動中は子どもたちもうれしくてたまらないという感じで、みんな一生懸命に取り組んでくれています。」